

# Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



## みすず書房の本棚

【無料送付】

No. 35 2020 秋

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 2-20-7 tel. 03-3814-0131 www.msz.co.jp

### 不可能を可能にした男たち

ポール・J・スタインハートの『「第二の不可能」を追え!』を読む

仲野 徹

ラジオ体操じゃあるまいし、不可能に第一とか第二とかあるのか。『「第二の不可能」を追え!』というタイトルを見たら誰しもがそう思うだろう。その違いは冒頭で説明される。第一の不可能とは、けっして1+1が3にならないように、絶対的な不可能のこと。未来永劫、可能になることがありえない不可能である。

本書の第1部の題は「不可能を可能にする」だ。論理的におかしいような気がするが「第二の不可能」ならば、ありえない話ではない。それに、「不可能を可能に」というのは、私にとって聞き馴染みのある言葉なのである。

いまを去ること三十年前から約五年前、京都大学の本庶佑先生の研究室で助手(現在の助教)、講師を務めた。自慢ではないが、「完璧なる不肖」の弟子である。当時、先生がよくおっしゃっておられた言葉に、「Stick to the question (問題にこだわれ)」と「不可能を可能にしたいんや」というのがあった。

不可能とは可能でないことを意味するのだから、論理的に破綻しているのではない。それに、そんな無茶な理屈で無理難題を押しつけられたりしたらたまったものではない。本庶先生がノーベル賞を受賞された研究は、がんの免疫療法の開発である。ずいぶん昔から、がんの免疫療法は原理的には可能であると考

まったく偶然にその準結晶物質のことを知らされたスタインハートは、どれだけ驚いたことか。そのシーンを読めば、こちらの鼓動まで高鳴ってくる。ちなみに、シエヒトマンは後に、「準結晶の発見」でノーベル化学賞を受賞している。

「いまや、物質のとりうる形態の数は、無限になった。」凄腕の理論物理学者とその仲間たちが、物質科学の新たな可能性を追う。「ペンローズ・タイル」のこのうえなく魅力的な幾何学に触発されて著者たちが考案したのは、禁じられていたはずの対称性をもつ、まったく新しい形態の物質——名付けて、「準結晶」——の理論だった。

重要なことは、自ら設定した問題に執念を持って取り組むことである。それに対して後者はやや理解に苦しむ。不可能と可能が入り乱れた判じものみたいな文章になってしまっただけ、そのような不可能も確かに存在しそうだ。

ノーベル賞ご受賞の知らせを聞いた時、本庶先生はホンマに不可能を可能にする男やっただんや、と、あらためて感心した。わからなかったこちらがアホやっただけなのである。

て、うまくいく時もいかない時もある。こかすがすがしい。この爽快さは本書の中で味わっていたくほかはない。科学するスリルと興奮を凝縮した、胸躍るノンフィクション。

「これは物質の新しい形態についての物語以上のものだ。科学がいかに機能するかを映し出す、スリリングで素晴らしい記述である。」(ウォルター・アイザックソン)

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ 斉藤隆史訳

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

### 胸躍るサイエンティフィック・アドベンチャー

ポール・J・スタインハート

『「第二の不可能」を追え!』

理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

斉藤隆史訳



第二の不可能を追え!

理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

「第二の不可能」を追え! 理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ

(四六判・392頁・三四〇〇円)

【自然科学】

(なかの・とおる 生命科学者)

現代社会が新たなウイルス感染症の出現リスクを抱えていることは、一九八〇年代から指摘されていた。

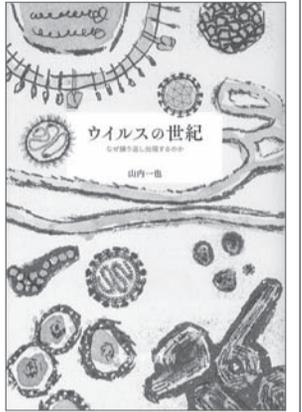
実際、二十世紀後半以降、新たなウイルスが社会に次々に出現している。感染者と共に大西洋を渡ったラッサウイルス。宿主であるコウモリから他の動物を介してヒトに伝播したニパウイルス。院内感染がクラスターとなったエボラウイルス。憶測が差別につながったハンタウイルス。そして、コロナウイルスのグループから二度、新型コロナウイルスが出現した。これまでに、ウイルスによるヒトの社会への進出はたびたび試行されてきたのであり、新型コロナウイルスはその中でも特に成功した例と言える。

### 20世紀後半以降、10の出現事例から

山内一也

#### 《ウイルスの世紀

なぜ繰り返し出現するのか》



ともいえる。動物やヒトが密集し、短時間に長距離を移動するようになったことで、ウイルスが伝播しやすくなった。また、人が自然界の開発を進める過程で、野生動物と共生するウイルスがヒトという新たな宿主と出会いやすくなっているためだ。

ウイルスの10の出現事例を通じてウイルスと人間社会の関係を描き、新たなウイルスの出現を警告する書。

「ウイルス学・感染症学」(四六判・264頁・二七〇〇円)

### 感染症制圧にいたる国際協力

アマダ・ケイ・マクヴェティ 《牛疫 兵器化され、根絶されたウイルス》

人類が根絶に成功した疫病は、天然痘と牛疫のみである。本書は、天然痘に比べあまり知られていない牛の伝染病、牛疫の根絶までの紆余曲折の道のりを述べている。

生物兵器研究を開始する。研究は戦後も、根絶キャンペーンの陰で続けられた。

ドメスティック・バイオレンスは、個人に、社会に、深刻な被害をもたらしている。

### DVを知り、解決するために

レイチェル・スナイダー 《目に見えない傷》

本書は、DVの被害者、加害者、双方の家族、支援組織や警察でサポートする人に話を聞き、何が問題の本質なのか、そもそも何が起きているのか、どう解決したらよいかを、手探りで取材していく。

「なぜ逃げないのか」とひとへは言うが、被害者は加害者を逆上させないように、慎重に生き延びる道を探っている。

「目に見えない傷」(四六判・344頁・四〇〇〇円)

### 「トランプ後」を見通すために

マデレーン・オルブライト 白川貴子・高取芳彦訳

《ファシズム 警告の書》

「ファシストたちに初めて暮らしを方向転換させられたのは、私がよちよち歩きを始めたばかりの、一九三九年三月十五日だった。その日、生まれ故郷のチェコスロバキアにドイツ軍がなだれ込んできたのだ」(第一章より)。

幼少期の戦争体験から説き起こし、クリントン政権の国連大使、国務長官として対峙したミロシエビッチ、プーチン、金正日ら強権指導者の特徴に触れつつ、トランプ大統領誕生の前後から国内外で高まっている危険な兆候を国別に分析、その特徴と克服のための方策を論じる。

「現代史・政治」(十月上旬刊) (四六判・304頁・三〇〇〇円)

「ケネス・B・パイル 《アメリカの世紀と日本》」(四六判・520頁・四八〇〇円)

「現代史・日米関係」(四六判・520頁・四八〇〇円)

「育藤道雄 《治したくない ひがし町診療所の日々》」(四六判・256頁・二二〇〇円)

「育藤道雄 《治したくない ひがし町診療所の日々》」(四六判・256頁・二二〇〇円)

「育藤道雄 《治したくない ひがし町診療所の日々》」(四六判・256頁・二二〇〇円)

「育藤道雄 《治したくない ひがし町診療所の日々》」(四六判・256頁・二二〇〇円)



「ファシズム」(十月上旬刊) (四六判・304頁・三〇〇〇円)

「ケネス・B・パイル 《アメリカの世紀と日本》」(四六判・520頁・四八〇〇円)

「育藤道雄 《治したくない ひがし町診療所の日々》」(四六判・256頁・二二〇〇円)

### みすず書房新刊

2020.2.7 東京・文京本郷2-1-3 (価格は税別です)

#### ハンセン病療養所と自治の歴史

松岡弘之 病者の隔離と排除の施設はやがて連帯と解放の拠点となった。瀬戸内の島で当事者たちが刻んだ百年の精神史。五四〇〇円

#### スミス・マルクス・ケインズ

よみがえる危機の処方箋 ヘルマン 資本主義の激動期を生き、経済学を刷新した三人の生涯と著作を紹介し、資本主義の核心を照らす。鈴木直訳 三六〇〇円

#### オーケストラ

知りたかったことすべてメルラン オーケストラの見方が変わる！基本問題から気になる小事まで、情報満載の事典的エッセイ。藤本・山田訳 六〇〇〇円

#### 結ばれたロープ

フリソントロッシュ 岩と氷のアルプスで悲劇を乗り越えて生きる。若き山岳ガイドたちを描いた名作小説。石川美子訳 三八〇〇円

#### スマートマシンはこうして思考する

ジェリッシュ 人工知能(AI)の「思考」の正体が一冊でわかる本。設計者の視点でAIを大解剖。依田訳 栗原解説 三六〇〇円

#### 文明史から見たトルコ革命

ハニオール イスラム圏初の近代西洋理念に則る建国は成功したが、西洋と東洋の狭間から歴史を読む。新井政美訳 四〇〇〇円

#### 暴落

金融危機は世界をどう変えたのか トウニス リーマンショックから10余年。未曾有の危機が世界秩序をいかに再編成したかを描く決定版。江口・月沢訳 各四五〇〇円

#### 良き統治

大統領制化する民主主義 ロザンヴァロン いま民主主義は機能不全を起している。統治の歴史を辿り現代民主主義の難問に答える。古城毅他訳 五五〇〇円

#### 脳のネットワーク

スポンズ 脳科学とネットワーク科学を接合する新しい脳の見方。ネットワーク神経科学」を唱導する。下野昌宣訳 六〇〇〇円

#### もうダメかも

死ぬ確率のシミュレーション他 統計学の権威が感染症からリスクまで、あらゆるリスクを分析の絶頂ストーリー。松井信彦訳 三六〇〇円

#### 人体は流転する

医学書が説明しきれないからだの変化 フランシス 生きるとは、終わりのない身体委縮の只中にあることだ。博物館のような医療エッセイ。鎌田 原井監修 三四〇〇円

#### 刃物たるべく 職人の昭和

土田昇 鑿、鋳、鍛…道具を手を受け継がれてきた技術の系譜。ひたすら無名性の中に生き、作った職人たちの肖像。四五〇〇円

#### 美しい痕跡

手書きへの讃歌 ビアゼットン イタリアを代表するカリグラファーが手文字書への豊かさと醍醐味を綴る。作品も必見。書野有美訳 三四〇〇円

#### 建築の東京

五十嵐太郎 東京はいかに変貌したのか。近過去の建築景観。丹下健三岡本太郎以後の東京計画。未来都市の系譜を検証。三〇〇〇円

#### 学問としての翻訳

「季刊翻訳」『翻訳の世界』とその時代 佐藤・ロスベック 忘れられた革新的専門誌の翻訳言説をインタビューから掘り当てた豊富な70・90年代の知的地層。四五〇〇円

#### 現代精神医学原論

「新装版」ガミー 生物学的治療と心理学的治療の二極分化。折衷主義の蔓延。精神医学のとりうる最良の道は？ 村井俊哉訳 七四〇〇円

#### 臨床医学の誕生

「新装版」フーコー 人間科学の医学的基盤とは。18・19世紀の認識論的切斷「まなざし」の変化そのものを問う。神谷美恵子訳 五〇〇〇円

#### 精神疾患と心理学

「新装版」フーコー その後の理論を準備した著作。精神と身体の関係論を論じ、狂気を文化のポジティブな表現と説く。神谷美恵子訳 三三〇〇円

#### 今日のトーマス・ヘン

「新装版」レイヴィストロース トーマス・ヘン概念を批判し、「未開」社会に人間性の普遍性を探る構造主義人類学宣言。仲澤紀雄訳 四四〇〇円

#### 夕暮の緑の光

「新装版」野呂邦暢 端正な文体に秘めた、人生への熱い思い。ほとぼり故郷の光と風。42歳で急逝した作家の随筆選。岡崎武志編 二八〇〇円

#### 通訳学入門

「新装版」ポエヒハッカー 独自の学術研究対象となった通訳学。現在から将来への流れも押さえた実用的教科書。鳥飼致美監訳 五五〇〇円

#### 妄想

「新装版」ピンスワンガー 現存分析から現象学へ。新しい精神医学を切り開いた著者による。その方法論の総決算。宮本・関訳 四五〇〇円

「これまでで最高の研究だ」ポール・ケネディ(イェール大学教授)『大国の興亡』  
 「本書は新たに始まった冷戦の中心にマーシャル・プランを大胆に位置づけ、ソ連が苦勞のすえに勝ち取った中欧と東欧の緩衝地帯にこのプランが脅威をおよぼす可能性について、スターリンがいかに真剣に考えていたかに焦点を当てて、プラハでのクーデターやベルリンの封鎖など、冷戦初期の劇的なエピソードのほとんどは、マーシャル・プランを挫き、欧州全域におけるアメリカの影響力弱体化を狙うスターリンの強い決意が原動力だった。」

## 戦後秩序はここから生まれた

ベン・スタイル  
 《マーシャル・プラン 新世界秩序の誕生》  
 小坂恵理訳



マーシャル・プランがアメリカ外交の最大の成果のひとつとして記憶されるのは、先見の明があったからだだが、実際に効果を発揮したからでもある。政治的手腕が素晴らしい成果を發揮するためには、高い理想を掲げながらも現実的に目を向けなければならぬ。私たちは、それを教訓として学ぶ必要がある(本文より)

この巨額かつ野心的な欧州復興イニシアティブは、いかにして冷戦という世界秩序を形作り、アメリカの戦後の大戦略に資したのか。アメリカ、ロシア、ドイツ、チェコの新資料を駆使して、その全貌を描いた決定版。『現代史』(四六判・696頁・五四〇〇円)

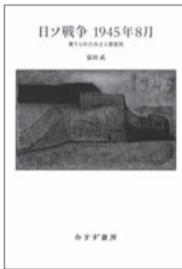
## 七五年目に明らかになる真実

富田武 日ソ戦争 1945年8月 棄てられた兵士と居留民

「日ソ戦争」はソ連軍一七〇万、日本軍一〇〇万が短期間であれ戦い、日本側の死者は将兵約八万、民間人約二五万、捕虜約六〇万を数えた、明らかな戦争であった。

本書は、現在まで「触れられない敗戦史」ゆえに放置されてきた日ソ戦争(一九四五・八・九一―九・二)の全体像を初めて描くものである。旧ソ連の公文書と日本側資料、日本人兵士の回想の三つの視点から戦況現場の詳細を追った「第一部 日ソ八月戦争」を軸に、軍事的側面を中心に、これまで断片的にしかわかっていなかった戦争の真実を著者は明らかにしていく。

ソ連側の戦略はいかなるものであったか。それに対する日本と関東軍の実態は? 日本軍とソ連軍の兵士はどのよ



うな思いで戦闘にあたっていたのか。満蒙開拓団はじめ居留民がこの戦争に巻き込まれていった実情は? さらに、ヤルタ会談前後から広島・長崎への原爆投下、ソ連参戦まで、また日本敗戦後の日本軍捕虜などの取り扱いやシベリア抑留、東京裁判、七三一部隊の処置に至るまで、米ソの動向と思想も併せて、現在に連なる諸相を、本書は考察していく。

参謀の戦史に代わって兵士の戦史にアクセントを置き、日本敗戦後七五年目にはじめて明らかにする真実を、ここに記す。地図や表や資料を駆使した、現在の水準をしめす実証研究であり、著者の生き方も伝える渾身の書。

『現代史』(四六判・400頁・三八〇〇円)

## 生命を賭した最終報告

ヴァイトルト・ピレツキ 《アウシュビッツ 潜入記》 収容者番号4859  
 杉浦茂樹訳

一九三九年九月、ワルシャワはナチス・ドイツの攻撃で陥落した。その一年後、この都市の路上でおこなわれたナチスの一斉取り締まりで、ポーランド軍情報将校ピレツキは意図的に捕まってアウシュビッツに送られた。

当時ロンドンのポーランド亡命政府は、新設のこの収容所の目的を探っていた。ピレツキの主な任務は、収容所の実態を外へ流すこと、そして将来の連合軍による空爆に備え、それに呼応して武装蜂起できるよう、密かに仲間の収容者を組織することだった。

ピレツキの情報は翌一九四一年初頭から連合軍に届きはじめる。まずポーランド人政治犯の処刑、独ソ戦が始まるとソ連軍捕虜の大量処刑、さら

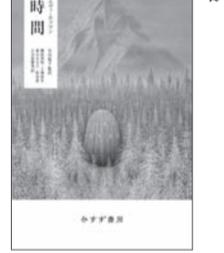
らにユダヤ人の「最終処分」開始のニュースは、他のルーフトに先駆けて伝えられた。しかし収監から三年近く、蜂起の可能性は一向に見えないう。ついに彼は見切りをつけて二人の仲間と脱走した。

本書は一九四五年の上司宛て最終報告だ。文章は強い意志に貫かれ、しかし事実を淡々と綴ろうとしている。長らくタイプライターされたポーランド語原本のままだったが、二〇一二年に英訳、出版された。

ピレツキは戦後、祖国がソ連の影響下に入ると今度は反ソ地下運動に参加するが、一九四七年、自国政府に逮捕され、翌年に処刑された。二つの全体主義に抗した生涯だった。「ナチス強制収容所」(四六判・488頁・四五〇〇円)

## 限りある人生をどう生きるか

エヴァ・ホフマン  
 早川敦子監訳  
 柳田利枝・上神弥生他訳



『記憶を和解のために』(早川訳、みすず書房、四五〇〇円)で知られるホロコースト二世時代の作家が描く時間論である。ポーランドで生まれカナダに移住、米ニューヨーク・タイムズの編集者をへて現在は英国に暮らす著者の時間経験が本書の底流にある。

「私たちは驚くほど時間的な生き物である。身体そのものがタイムリーであり、精神と五感を通して時間を内面化し、内側から時間に構造を与え、それ以上に重要なものは時間の意味と不可分だということだ。なぜなら時間は、人間に意味をもたらすための基本的な媒体であり条件だからだ。あらゆる実存的な問いの根源には、時間の有限性がある。人間は死の宿命の地平を

どう乗り越えるか考え、自身自身の終末を認識しつつも、それに対抗する問いを立てる。限りある人生にどのような意味があるのか、そこから何を導きだせるのか」と

生物学、文学、哲学、精神分析などを横断しながら、時間に対する万能感と人間の時間への軽視に警鐘を鳴らし、テクノロジーとAIの時代に、人間はどう生きるべきかを問いかける、根底的かつアカチュアルな書。

『現代思想』(四六判・208頁・四〇〇〇円)

## 著者はフランスの地方都市

ランズの貧困家庭出身。工場労働者の父と家政婦の母。祖母も極貧だった。しかし哲学に傾倒し同性愛を自覚するにつれ、彼は家族から離反してゆく。一族で初めて大学に進み、知識階級と交わるようになる。出自を強く恥じた。ゲイである事よりも下層出身を知られるのが怖かった。

父の死を機に彼は数十年ぶりで帰郷する。息子が遠ざかったことで、母は苦しんでいた。自ら去ったはずの息子も、別の意味で苦しんでいた。階級社会差別的な教育制度、執拗な規範という、日常的であからさまな支配と服従のメカニズムが正常に働く社会。本書はその異様さと苦しみを自らの半生に浮き彫りにした。仏独ベスト&ロングセラー。一度は切り捨てた世界との



括的被爆史。橋本明子『日本の長い戦後——敗戦の記憶・トラウマはどう語り継がれているか』山岡由美訳(三六〇〇円)。東アジアの亀裂を招く敗戦の文化を社会学者が分析。S.D.ゴールドマン『ノモンハン1939——第二次世界大戦の知られざる始点』山岡由美訳 浅田雅文解説(三八〇〇円)。単なる極東の国境紛争ではない、世界史の中のノモンハンを捉え直す。



「一度は切り捨てた世界との

## 仏独ベスト&ロングセラー、各紙絶賛

ディディエ・エリボン  
 《ランスへの帰郷》  
 塚原 史訳 三島憲一解説



痛みを伴う再会。伊達聖伸氏(日本経済新聞)。「自分の思考を支配してきた枠組みと断絶することで、新たに自由を獲得しようとする著者の強い意志。宇野重規氏(朝日新聞)。「自己を介した社会分析の傑作」鹿島茂氏(毎日新聞)。「啓蒙的解放思想そのものの『階級性』、知の形成における『自由と抑圧』の関係をもう一度節にかける一西谷修氏(図書新聞)。ほか各紙絶賛。

『思想・社会学・自伝』(四六判・264頁・三八〇〇円)

ウイルスの生物界における多彩な役割を描き出すことで「ウイルスとは何か」に迫る『ウイルスの世紀』(最新刊8月)の著者の前著 好評10刷

## 山内一也 (東京大学名誉教授、日本ウイルス学会名誉会員、ベルギー・リエージュ大学名誉博士)

### ウイルスの意味論 生命の定義を超えた存在



生命体であり物質でもある。病原体であり、守護者でもある。ウイルスの生態を知れば知るほど、生と死の、生物と無生物の、共生と敵対の境界が曖昧になっていく。新たなウイルス像が、生物の常識を問う。2800円

1918-19年のインフルエンザ(通称「スペインかぜ」)最大の教訓とは 好評7刷  
 A.W. クロスピー  
 西村秀一(国立病院機構仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンター長) 訳・解説  
 史上最悪のインフルエンザ 忘れられたパンデミック  
 社会・政治・医学史にまたがる史上最大規模の疫禍の全貌。4400円



合理化・客観化ばかりが叫ばれるようになって久しいが、アルゴリズムだけでは決して捉えきれない人間の「主観」に注目するテクノロジーが、遠くからこんな世の中を変え始めるかもしれない。VR(バーチャルリアリティ)技術はその急先鋒。本書では第一次VRブームの立役者である著者が、VRの歩みと次世代への展望を語り尽くす。読んでまずわかるのは、VRで「バーチャル」な身体と世界を体験することで、「リアルとは何か」に新たな光が当たるといふことだ。最新テクノロジーの多くは私たちが主観性を機械的にもぎ取っていくように感じさせるが、本書が語るVRはそんなツルツルで灰色の未来像を塗り替えてくれる。「ラニアーが強調するのは、重要なカンバスはバーチャル世界ではなくユーザ

合理的な客観化ばかりが叫ばれるようになって久しいが、アルゴリズムだけでは決して捉えきれない人間の「主観」に注目するテクノロジーが、遠くからこんな世の中を変え始めるかもしれない。VR(バーチャルリアリティ)技術はその急先鋒。本書では第一次VRブームの立役者である著者が、VRの歩みと次世代への展望を語り尽くす。読んでまずわかるのは、VRで「バーチャル」な身体と世界を体験することで、「リアルとは何か」に新たな光が当たるといふことだ。最新テクノロジーの多くは私たちが主観性を機械的にもぎ取っていくように感じさせるが、本書が語るVRはそんなツルツルで灰色の未来像を塗り替えてくれる。「ラニアーが強調するのは、重要なカンバスはバーチャル世界ではなくユーザ

「この体だということだ。……身体と人間の可能性に対する信頼と愛が、どこまでも温かい。」(伊藤亜紗氏、毎日新聞書評二〇二〇年七月十八日) この技術によって、平凡な社員の生活がバーチャルな空間と現実世界にまたがるというのも、いまや身近で現実に行きわたることである。オンラインで人が繋がる手段としても、VRはSNSよりずっと健全かもしれない。VRの人間臭い本質を語ってピカ一の本。「ノンフィクション」(四六判・496頁・三六〇〇円)

「不完全性定理」を発表し、アリストテレス以来最も偉大な論理学者といわれるクルト・ゲーデル(一九〇六―七八)とは、いったい何者か。本書は、「ゲーデル文書」(フリンストン大学図書館蔵)に長年取り組んできた著者の成果である。草稿や書簡の下書きだけでなく、断片的メモ、走り書き、図書カード、ホテルの請求書に至るまで、ゲーデル自身がその痕跡を残したものを、著者はゲーデルの人的交流、既刊論文・書簡などと照らし、ゲーデルの世界を浮き彫りにしていく。実生活上でのゲーデルの奇異な振る舞いや妄想癖のようなもの(著者はそれを《狂気》と呼ぶ)は、彼の論理学とどう関係しているのか。ゲーデル

「人が自然を切り開き、破壊している。もし人が立ち去れば、自然は元の姿を取り戻すだろう。せめて人が効率的に自然を利用するようにすれば、自然への負荷を最小限にできるはずだ。」本書によれば、この考えはいくつかの点で間違っている。まず、人が介入をやめることで自然が「元の姿」に戻るとは限らない。著者によれば各地の自然は「社会生態系」であり、「外乱に対してその機能を維持する能力(レジリエンス)」を有している。ただし、レジリエンスは有限なので、その閾値を超える外乱が起きると別の社会生態系へと移行してしまう。この新たな社会生態系も独自のレジリエンスを持つため、移行後に人が手を引いただけでは元の生態系には戻らないという。逆に、人の活動が社会生態系を維持する機能の一部であ

### 小さな声で世界を変えていく

「これが日本で女が初めて参加したメーデーです。日本初の女性社会主義団体赤瀬会を結成、多くの労働運動や産児制限運動に参加し、治安維持法初の女性検挙者となり、ゾルゲ事件に連座した九津見房子。社会主義のために懸命に行動し続けたその生涯は、しかし、あまり知られていない。

本書は、九津見房子の生涯と活動とを、晩年の聞き取りをはじめ多くの関連資料から再構成する。岡山の女学校時代の社会主義との出会い、福田英子を頼った上京に始まり、様々な非合法活動、ゾルゲ事件と刑務所暮らし、戦後の人生まで、共に活動した女性たちは、山川均、三田村四郎、宮城与徳ら男性とともに、九津見の視点から時代と現場を描き、社会主義のために行動した女たちの一端を映す。「社会主義運動・女性史」(四六判・304頁・三六〇〇円)

「天才の真実に迫る類のない書」 P・カスリーン・ゲス 《ゲーデルの悪霊たち》 新谷昌宏訳 論理学と狂気

「世界的な水準で認められた大作」 ジョージ・マカリー 《心の革命 精神分析の創造》 遠藤不比人訳 精神分析の創造

「黒人であるこの私の欲することはただひとつ。道具に人間を支配させてはならぬこと。人間による人間の、つまり他者による。……ニグロは存在しない。白人も同様に存在しない。」

「黒人であるこの私の欲することはただひとつ。道具に人間を支配させてはならぬこと。人間による人間の、つまり他者による。……ニグロは存在しない。白人も同様に存在しない。」

「黒人であるこの私の欲することはただひとつ。道具に人間を支配させてはならぬこと。人間による人間の、つまり他者による。……ニグロは存在しない。白人も同様に存在しない。」

### 変わりゆく環境と生きる

ブライアン・ウォーカー／デイヴィッド・ソルト  
《レジリエンス思考》  
黒川耕大訳

「人が自然を切り開き、破壊している。もし人が立ち去れば、自然は元の姿を取り戻すだろう。せめて人が効率的に自然を利用するようにすれば、自然への負荷を最小限にできるはずだ。」本書によれば、この考えはいくつかの点で間違っている。まず、人が介入をやめることで自然が「元の姿」に戻るとは限らない。著者によれば各地の自然は「社会生態系」であり、「外乱に対してその機能を維持する能力(レジリエンス)」を有している。ただし、レジリエンスは有限なので、その閾値を超える外乱が起きると別の社会生態系へと移行してしまう。この新たな社会生態系も独自のレジリエンスを持つため、移行後に人が手を引いただけでは元の生態系には戻らないという。逆に、人の活動が社会生態系を維持する機能の一部であ

「黒人であるこの私の欲することはただひとつ。道具に人間を支配させてはならぬこと。人間による人間の、つまり他者による。……ニグロは存在しない。白人も同様に存在しない。」

レイシズムを知り、考え、越えていくには

ジョージ・M. フレドリクソン 李孝徳訳  
人種主義の歴史  
反ユダヤ主義と有色人差別。ふたつの人種主義の起源と発展、現在を追い、人種主義の本質を明確にした画期的著作。3600円

ジェレミー・ウォルドロン 谷澤正嗣・川岸令和訳  
ヘイト・スピーチという危害  
ヘイト・スピーチは社会のなを壊すのか。表現の自由との関係は。危害の定義から法規制の根拠まで、最重要書。4000円

中島和子  
黒人の政治参加と第三世紀アメリカの出發 新版  
真の民主主義とは。キング牧師、公民権法、カーター政権…南部に焦点をあて政治を分析。著者の研究の集大成。6200円

カロリン・エムケ 浅井晶子訳  
憎しみに抗って  
不純なものへの賛歌  
人種主義、ファナティズム、民主主義への敵意——なぜ集団的な憎しみが高まっているのだろう。いま大切なのは。3600円

カロリン・エムケ 浅井晶子訳  
なぜならそれは言葉にできるから  
証言することと正義について  
暴力を受けた人はなぜそれを語れなくなるのか。「それでもなお語る」ことへの賛歌。世界への信頼を取り戻す鍵。3600円

C. レヴィ=ストロース 渡辺公三・三保元・福田素子訳  
人種と歴史／人種と文化  
自民族中心主義の幻想性を突き、文化の多様性を断固擁護。人種主義の思想的根拠を解体する古典的名著、新訳新版。3600円

フランツ・ファノン  
黒い皮膚・白い仮面  
海老坂武・加藤晴久訳  
3700円



「われわれが想像する社会政策をほるかに超えた感動的ストーリーだ」(『GQ』誌)
「なぜすべての子供に成功するための道具を与えられないのか?」

地域を変える、文化を変える

ポール・タフ 《ハーレム・チルドレンズ・ゾーン》の挑戦
高山真由美訳

「子どもも大人もこの絵本を一緒に読んで、知恵とかコツを見つけてください。自分の足で、自分らしく、自信をもって歩いていけるように。」

ノーベル文学賞受賞作家の現代版「イソップ物語」

トニ・モリスン/スレイド・モリスン文 パスカル・ルメートル 絵

《どっちの勝ち?》

鶴殿えりか・小泉 泉訳



「ライオンとネズミ」より

またたセーフティネットを用意する——それが「創設者カナダの目標だった」
「貧しい子供のたどる軌道を変えること。それが本書の結論である。子供の人生のできるだけ早い段階で介入すること。思春期が終わるまで介入を続けること。」

エビデンス革命のすべて

A・リー 《RCT大全》
上原裕美子訳

「耳寄りの話が満載。神話を覆し、隠れた真実を明らかにすることに興味があるなら、ぜひ読んでください。」

子どもも大人もこの絵本を一緒に読んで、知恵とかコツを見つけてください。自分の足で、自分らしく、自信をもって歩いていけるように。

「監獄は実験室の実験ではありませぬ。われわれの生は独裁政権の非道さを説明する材料でもありません。独裁政治はかつて野蠻でしたし、いまでもそうです。とはいえ監獄経験の独り占めを拒否することは抵抗の行為です。」

「半世紀にわたって存続する「アサドのシリア」。国際的に支えられた独裁国家にあつて

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

独裁国家をめぐる政治的省察

ヤシーン・ハージュー・サーレハ 《シリア獄中獄外》
岡崎弘樹訳

「監獄は「国民的経験」と化している。ハーフェズ政権下の一九八〇年、反体制派組織に所属していたかどで拘束され、十六年ものあいだ獄中につなされたアレクサンドリア大学医学部生——今世紀に入つて「ハヤト」「ナハール」ほか汎アラブ紙上で論陣を張り、「アラブの春」以後はその発言が世界的に注目されるにいたつたシリア人作家・ジャーナリストがみずから監獄経験出獄後の元政治囚の生活、獄外情勢をめぐって綴つた政治的省察。『国際情勢』(四六六判・264頁・三三六〇〇円)

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

中東を知る 既刊書より

酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

月刊雑誌 《みすず》 最近号より

酒井啓子「イラクと中東の「朝」は五十嵐太郎「オリピックは都市を変えるのか」(四月号)。矢野久美子「ペリヤミン・エッセイをめぐる」/藤山直樹「コロナウイルスと桜」/中村和恵「ジーン・リースを読み歩く」/土屋健「機能獲得の進化史」(五月号)。「新連載」西成彦「死者は生者のなかに」/武田尚子「もう一つの衣服」/繁内理恵「戦争と児童文学」/郷原佳以「デリダの文学的想像力」(六月号)。「新連載」野口良平「列島精神史序説」/「新連載」前川淳「空想の補助線」/矢野久美子「反逆する心」という遺産」/酒井啓子「ステイホームは自治空間!」(七月号)。「新連載」頭木弘樹「咬んだり刺したりするカフカの『変身』」/「新連載」西平直「こころの記憶に語らせて」/小野寺拓也「ナチズム研究の現在」(八月号)。小沢信男「耳ふたつ」/松本俊彦「泣き言と戯言と寝言」/前川淳「四百六十六億光年の孤独」あるいは、四十三億五千兆秒物語」/辻由美「図書館の可能性」/藤山直樹「死の恐怖は怖い」/矢野久美子「あいだ」にあること」(九月号)。(各三〇〇円)

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

月刊みすず 購読のご案内

小誌は原則として郵送による年間購読をお願いしています。最近では7月から9月これまでの間に、次の書籍をいずれも新装版として復刊いたしました。(ジンサー『ネズミ・シラミ・文明』は本紙3面、ファンン『黒い皮膚・白い仮面』は前面に広告別掲)

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

「酒井啓子『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』(三三三三)」。アラブの春からイスラーム国への転落。排外主義のはびこる日本。彼等の情勢を鋭く抉る時評。岡真理『カザン地下鉄が走る日』(三三三三)」。絶望的な状況でなお人間的に生きる人々の声を伝える。同『アラブ、祈りとしての文学』(三三三三)」。世界をどう変えたのか?」

復刊書のご案内
みすず書房では、品切書の復刊を随時おこなっています。最近では7月から9月これまでの間に、次の書籍をいずれも新装版として復刊いたしました。(ジンサー『ネズミ・シラミ・文明』は本紙3面、ファンン『黒い皮膚・白い仮面』は前面に広告別掲)
R.ストラ 阿部恵一郎訳 バウムテスト研究 [9月復刊] 8000円
富田武・長勢了治編 シベリア抑留関係資料集成 [9月復刊] 18000円
広重徹訳・解説 カルノー・熱機関の研究 [7月復刊] 3400円
松本・竹山訳 グランスドルフ/ブリゴジン 構造・安定性・ゆらぎ [7月復刊] 7000円
鎮目恭夫訳 N.ウィーナー 発明 [7月復刊] 3000円
あら作家の日記 3800円
ある作家の日記 4400円
人生についての断章 3700円
小津安二郎と戦争 3200円
寛容について 3800円
寺田寅彦と現代 3500円
ある作家の日記 4400円

亡くなって五年が経ったこの五月、詩人が書き残しなから本にまららずに終わった断章による連作「誰も気づかなかった」にくわえて散文詩五篇を、晩年の思索の結晶のような小さな本として刊行したものが好評を得ている。「本があった。しかしそれが本だと、ここにいる誰も気づかなかった。／本は読まねなかつたからである。リズムをもつて変奏し、読むにつれて頭と心に染み込んでくるような言葉のつらなり。とりわけ次の四行は、コロナ禍で逼塞している世間にもつづく届いたものとみえて、新聞や読者のブログにもたびたび引用されているようだ。「どこにも危険はなかつた／危険もまた、最初はただ／些

誰も気づかなかった  
長田弘

## 晩年の思索の結晶

長田弘

《誰も気づかなかった》

事としてしか生じないからである。ただそれだけのことだった。」

連作の最後は「きみは何で

できている？」という問いで

併せて収めるシリーズ「夜の

散文詩」は一年に一篇ずつ

ゆつくりと綴られた。「図書館

の椅子」「静かな闇の向こう

「ONE」「瞬は永遠より

も長い」「街路樹の幻」。

身近において何度でも読み

返すことができる遺言詩集。

「詩・ことば・人生

(四六判・88頁・一八〇〇円)

▼長田弘の本『長田弘全詩

集』(一六〇〇円) 詩集18冊

47篇を収める唯一の完成版

絶筆「場所と記憶」所収。

▼『最後の詩集』(一八〇〇円)

『全詩集』後の詩を自身で編

んだラストアルバム。▼『ア

メリカの心の歌 expanded

edition』(二六〇〇円) 珠

玉の音楽エッセイ。▼『わ

れら新鮮な旅人 definitive

edition』(一八〇〇円) ほか。

## 思春期の心を描く新しい古典

ハワード・ノーマン  
川野太郎訳

《ノーザン・ライツ》

デヴィッド・ボウイが「人

生を変えた一〇〇冊」に入れ

た小説『バード・アーティス

ト』の作家ハワード・ノーマ

ンの美しいデビュー作。

父が持ち帰ったラジオ無線

で最初に聞いたのは、親友へ

リーの事故死の報せだった。

その父の失踪、先住民と結ぶ

交誼、そして母との別居……

二十世紀後半、北カナダ湖沼

地帯の澄み切った風景と大都

市トロントの昼夜を舞台に一

五歳の少年の孤独と成長を描

いて、切々と胸に迫る全米図

書賞候補作である。

サム・シェパードに背中を

押されて執筆されたこの小説

は、刊行されるやアーシユフ・

ル・グウィン、ピーター・マ

シーセンらに称賛された。

風景が「ひとつのキャラクター

ター」として現れるようにと

いう課題から、ストーリーは

おのずと広がった、と後に作

家は言う。遠隔地の村の生活

主人公ノアとペリーとの友

情、映画館へノーザン・ライ

ツの映写室に住み込むクリ

ー・インディアンの家。読

者には、北極光を見たような

感覚が残るだろう。「アメリ

カ文学・自然」【十月中旬刊

(四六判336頁・予四〇〇〇円)

未来の女王と過ごした日々

マリオン・クローフォード

《女王物語

エリザベスとマーガレット》

中村妙子訳

本書の前に、王族のありの

ままの姿やなにげない日常

を、彼らの肉声や喜びと悲し

みを城門の外へ伝えた本はな

かった。この本を書いたのは

〈クローフィー〉。生まれた時

は誰も予想しなかった女王の

位に25歳でつくことになるエ

リザベスと、妹マーガレット

の家庭教師として、宮殿で共

に暮らし、女王の少女時代か

ら若き日の重要なシーンすべ

てに立ち会った女性。

70年前、今からみれば暴露

本などという括りに入りよう

もない本書の刊行後、王室は

17年間家族同然に遇ってきた

幼少時から「息をするよう

に絵をかいてきた」画家・設

楽知昭は、ある時、絵をかく

とはどういうことかがわから

なくなつた。ぐにやぐにやに

なり、血みどろになり、言い

よどみながら、生や死とい

人間であればだれもが対峙す

るものと向き合う画家。その

リハビリテーションの試み

を、美学研究者が追った。

著者が画家を観察し、芸術

制作をみる基礎に置くのは、

ギリシア語の「中動態」すな

わち能動/受動、主体/客体

の対立とは別の考え方だ。

見ることかことが直結

して反転するよう、鏡に指で

描いて写し取る。等身大の人

形を吊ってポリエステルフィ

ルムにトレースをする「人間

写真機」。透過光と反射光の

## 画家のリハビリにみる 生きのびるためのヒント

秋庭史典

《絵の幸福 シタラトモアキ論》



原理。人工夢―透明壁画。雲と穴。模型。妄想をかくのでなく、かくこと自体が妄想であつた大きなノート。いつしか絵とそうでないものの区別が働かなくなり、力の抜けた「無為の場」が現れる。絵をかきながら、そんな「仕組みをつくる」こと。画家は学生たちに技法やアイデアの練り方を語る。画家にとつての幸せとは、人が幸せに生きることは、論考・対話・画集を一冊にした美しい本。「芸術・人生論」【十六日刊】(A5判・188頁・四〇〇〇円)

【予告】3社合同企画、この秋開催！

「パブリッシャーズ・レビュー」運動企画ブックフェア

白水社 × みすず書房 × 東京大学出版会

# レビュー合戦 2020

本紙『パブリッシャーズ・レビュー』を発行する3社合同のブックフェアを、この秋4年ぶりに開催します。編集者を中心とした3社の評者が、それぞれ他社の本を互いに論じ合う本企画。熱いレビューはリーフレットにまとめ、フェア開催店にて無料で配布します。11月より、全国50書店で開催予定。開催店舗一覧は各出版社のホームページでお知らせします。レビュー作品は以下の24点。ぜひ、お近くの開催店でお手にとってご覧ください。

- Theme 1. 歴史の転換点**  
宇野重規  
未来をはじめ (東京大学出版会) 1600円  
ミュデ/カルトワッセル  
ポピュリズム (白水社) 2000円  
ウィリアム・マックスビル  
〈効果的な利他主義〉宣言! (みすず書房) 3000円
- Theme 2. 「歴史」になるもの／ならないもの**  
歴史科学協議会 編  
歴史の「常識」をよむ (東京大学出版会) 2800円  
ポール・コリンズ  
バンヴァードの阿房宮 (白水社) 3600円
- Theme 3. 一粒から広がる世界の歴史**  
ジェームズ・C・スコット  
反穀物の人類史 (みすず書房) 3800円  
マージョリー・シェファア  
胡椒 暴虐の世界史 (白水社) 2400円
- Theme 4. 物語る顔、読まれる心**  
アレクサンダー・トドロフ  
第一印象の科学 (みすず書房) 3800円  
唐沢かおり  
なぜ心を読みすぎるのか (東京大学出版会) 2800円
- Theme 5. 未知とのコミュニケーション**  
木村大治  
見知らぬものと出会う (東京大学出版会) 2800円  
マシュー・レイノルズ  
翻訳 訳すことの戦略 (白水社) 2300円
- Theme 6. 「社交」のあり方**  
レイ・オルデンバーグ  
サードプレイス (みすず書房) 4200円  
谷口功一・スナック研究会 編  
日本の夜の公共圏 (白水社) 1900円
- Theme 7. 大衆から分衆へ―娯楽の変容**  
尾原宏之  
娯楽番組を創った男 (白水社) 2200円  
太田省一  
攻めるテレ東、愛されるテレ東 (東京大学出版会) 2400円
- Theme 8. 忘れることで生まれるもの**  
ダニエル・ヘラー＝ローゼン  
エコラリアス (みすず書房) 4600円  
飯田芳弘  
忘却する戦後ヨーロッパ (東京大学出版会) 4600円
- Theme 9. 言葉はおいしい**  
アンカ・ミュルシュタイン  
バルザックと19世紀パリの食卓 (白水社) 2200円  
三浦哲哉  
食べたくなる本 (みすず書房) 2700円
- Theme 10. Kinds of Minds**  
渡辺茂  
動物に「心」は必要か (東京大学出版会) 2700円  
ピーター・ゴドフリー＝スミス  
タコの心身問題 (みすず書房) 3000円
- Theme 11. 身体に眠る力を呼び起こす**  
スコット・カーニー  
サバイバルボディ (白水社) 2200円  
寺田新  
スポーツ栄養学 (東京大学出版会) 2800円  
ハロルド・ギャティ  
自然は導く (みすず書房) 3600円

書評コラム

「ところで私は、自分がどうサインすればいいのか、まったく見当が付きません。私はモーターゾーンではありません。もし、もはやパウラ・ベッカーでもないのです。私は私です、そしてもともと私になりたかったと思っています」(一九〇六年二月一七日付、リルケ宛の手紙より)

ドイツ人女性画家として、現代絵画への扉を自らの手で開いたそのとき、三二年の生を閉じた、パウラ・モーターゾーン・ベッカー(一八七六―一九〇七)。アカデミーと決別し、自然を師としながら制作に励む芸術家たちの共同体、ヴォルプスヴェーデの一員となったパウラを、運命的な出会いが待っていた――(魂の姉妹)となる彫刻家クララ・ヴェストホフ、後にクララと結婚する詩人リルケ、夫となる画家オットー・モーターゾーン。芸術に身を捧げ

著名楽団の舞台裏まで  
容赦なく  
オーケストラとは何かを多角的な視点で易しく解き明かす。本書を読めば聴き方は変わる。  
オーケストラという巨大な芸術の表現がいつまで生き残れるか。これは世界のクラシック音楽界の喫緊の課題だ。クラシックファンだけでなく、音楽家自身も肝に銘じよとばかりに、著名楽団の腰を抜かすような舞台裏まで書き記して容赦ない。



宮沢昭男  
クリスチャン・メルラン  
《オーケストラ》  
藤本優子・山田浩之訳  
を読む

想的なアンサンブルに聴き耳を立てる。チェロ首席と「第2チェロ・ソロ」の関係まで聴き分ける。  
楽団を消費財にすれば、レコード、CD同様、楽団も消える。そんな思いがあるのだろう。鬼籍入りしたフルートの話とその点希薄なのは惜しまれるが、往年の名指揮者らは、それらを交えて自らの音作りに精を出した。だがグロバル派もあるなど、形状と響きの好みの違いの話も興味深い。  
派もあるなど、形状と響きの好みの違いの話も興味深い。

取材方に舌を巻く。文献・録音資料をはじめ、戦前までさかのぼり世界の楽団をくまなく、これほど団員名を上げた議論は類がない。楽器ごとに名団員を話題に、団員同士の理

団員の奏す名盤も併せてじっくり聴きたい。  
楽器の話もそう。同じ楽器にファゴット、バソンの2通りの名があるように、コントラバス、オーボエ、クラリネットにもドイツ派、フランス派、イギリス

化と経済の効率化が楽団の音の均質化をもたらした。それが取りこぼしたものは何か。このことに注意を促し、一石を投じた本書の意義は大きい。  
それを気付かせたのが、本書のいう「対向配置の再

「このジャンルのファンは彼のヴィジュアルな豊かさを讀み、評論家は彼のテーマの密度を著めるが、彼が同時にたぶん何にもまして真の映画演出家であるという点を強調することがあまりにしばしば忘れられているのだ。(…)登場人物たちが字義の意味でリアルではないとしても、彼らはやはりシーンの空間―デッサンによって創造されたものである」とのなかに住んでいるのであり、映画表現に特有の手段はやはり監督にとつて原材料なのである。本書においてアニメがフレイミングの階梯の変化、カメラの移動、画面の奥行き、作業などを伴った「ほんとうの映画」のように扱われていると知っても驚かないでいただきたい。それはずっと前から当然のことなのだ。彼の数多くの才能のなかで間違いなくもつとも配慮されてこなかつ

花、少女、裸体。表現主義先駆けの女性画家



バルバラ・ボイス  
《パウラ・モーターゾーン=ベッカー  
初めて裸体の自画像を描いた女性画家》  
藤川芳朗訳

ることを自らに誓い、出産の直前まで描いて、描いて、描いて生きたパウラ。彼女は死の瞬間、母となると同時に、ドイツ表現主義の到来を告げる革命的な女性画家となった。死後、アトリエで見つかった二千点あまりの絵と、みずみずしい文才輝く『手紙と日記』の声を聴き、没後ますます愛されるパウラの短くもひたむきに生きつた生涯を描きだす。カラー作品三二点、訳者補注、受容史を付した、質量ともに充実の決定版評伝。【美術】  
(四六判・568頁・八〇〇〇円)

芸術の秋に

既刊書より紹介  
音楽 A・ロス『これを聴け』柿沼敏江訳(四六〇〇円)。気鋭の音楽評論家による壮大な20世紀音楽・文化史。Ch・アフロン/M・J・アフロン『メトロポリタン歌劇場―歴史と政治がつくるグランドオペラ』佐藤宏子訳(八四〇〇円)。ニューヨークに刻む130年のドラマ。J・スタロバンスキー『オペラ、魅惑する女たち』千葉文夫訳(三八〇〇円)。驚異と快楽のジャンルを碩学が同時代文学のうちに読み解く精神史。『クララ・シューマン』ヨハネス・ブラームス 友情の書簡』リッツマン編 原田光子編訳(四五〇〇円)。40年余にわたる往復書簡から20通精選。原田光子『真実なる女性クララ・シューマン』(五二〇〇円)。女性ピアノリストの

先駆を描く名著評伝。『ブリーズ/ケージ往復書簡』1940-1982』ナティエ/ピアンチコフスキ編 笠羽映子訳(二二〇〇円)。50通が明かす創造の現場と二人の共感距離感。決裂。A・シエフネル『始原のジャズ』アフロ・アメリカンの音響の考察』昼間賢訳(三四〇〇円)。一九二六年発表・世界初のジャズ研究。草創期の衝撃と可能性を活写。B・クラウス『野生のオーケストラが聴こえる』サウンドスケープ生態学と音楽の起源』伊達淳訳(三四〇〇円)。生物が作る音響の意味、音楽の起源を説き明かす。【美術】A・ダンチエフ『セザンヌ』二見 峰果・辻井 誠訳(九〇〇〇円)。伝記決定版。カラー図版80頁。『クレイの日記』ケルステン編 高橋

文字訳(七二〇〇円)。詳細に校訂・編集、新訳と美しい造本でファンに贈る愛蔵版。『ルドン 私自身に』池辺一朗訳(四二〇〇円)。普仏戦争での体験、植物学者や銅版画家との交流など100の断章。S・プリドー『ムンク伝』木下哲夫訳(八〇〇〇円)。《叫び》の背後にある画家の痛ましい生涯。G・グレッグ『ルシアン・フロイドとの朝食―描かれた人生』小山・宮本訳(五五〇〇円)。フロイトの孫にして現代絵画界のスターに登りつめた画家の初の伝記。『イサム・ノグチ エッセイ』北代美和子訳(四六〇〇円)。世界的彫刻家が石を彫る手で紡いだ思索の軌跡。マティスとルオー 友情の手紙』マンク編 後藤・石川訳(三三〇〇円)。二人はモロ

教室の同級生。50年の友情を証す第一級史料。『パウハウスの人々―回想と告白』ノイマン編 向井・相沢・山下訳(八二〇〇円)。伝説の造形教育学校。57人が語る証言集。【映画】M・オランダチエ『映画 画もまた編集である』ウオルター・マーチとの対話』吉田俊太郎訳(四八〇〇円)。稀代の映画編集者とツッパカー賞作家が編集芸術の意匠を語り尽くす。『メカスの難民日記』飯村昭子訳(四八〇〇円)。詩人・映画作家の原点。岡田温司『映画とキリスト』(四〇〇〇円)。形態、テーマ、物語、表現手法に息づくキリスト教を読み解く。御園生涼子『映画の声―戦後日本映画と私たち』(三八〇〇円)。国家の外に追われた他者の声を聴く硬派で繊細な映画批評。

精緻な作品分析とモノグラフィ

ステファヌ・ルルー  
《シネアスト宮崎駿 奇異なものポエジー》  
岡村民夫訳



上『火垂るの墓』(高畑勲、1988年) 下『千と千尋の神隠し』(宮崎駿、2001年)

たシネアスト宮崎という側面を理解するため、こうした演出がどのように内密に物語の組織化に関与し、かくして作品を観る際の喜びに關与しているのかが分析されることになる。『太陽の王子ホルスの大冒険』(美術・場面設計)から『千と千尋の神隠し』(原作・脚本・監督)まで、映画史・アニメーション史をふまえた精緻な作品分析を積み重ねたモノグラフィ。【映画学・映画史】(四六判280頁・予三六〇〇円)

みすず書房の電子書籍

今年これまで(2-9月)に配信開始した電子書籍をまとめてご紹介いたします

\* 電子書籍の価格は希望小売価格で表示しています  
\* 電子書店によって取り扱いのタイトルに若干の違いのある場合がございます

マーシャル・プラン  
新世界秩序の誕生  
スタイル 小坂恵理訳 5400円

ウイルスの世紀  
なぜ繰り返し出現するのか  
山内一也 2700円

万物創生をはじめよう  
私的 VR 事始  
ラニアア 谷垣暁美訳 3600円

目に見えない傷 ドメスティック・バイオレンスを知り、解決するために  
スナイダー 庭田よう子訳 4500円

ランスへの帰郷  
エリボン 塚原史訳 三島憲一解説 3800円

治したくない  
ひがし町診療所の日々  
斉藤道雄 2200円

牛疫  
兵器化され、根絶されたウイルス  
マクヴェティ 山内一也訳 4000円

ハーレム・チルドレンズ・ゾーンの挑戦  
貧乏人は教育で抜け出せるのか？  
タフ 高山真由美訳 4500円

建築の東京  
五十嵐太郎 3000円

もうダメかも  
死ぬ確率の統計学  
シュピーゲル/ハルター他 松井信彦訳 3600円

人体は流転する  
医学書が説明しきれないからだの変化  
フランシス 鎌田訳 原井監修 3400円



暴落 上・下  
金融危機は世界をどう変えたのか  
トゥーズ 江口・月沢訳 各4500円

スマートマシンはこうして思考する  
ジェリッシュ 依田訳 栗原解説 3600円

スミス・マルクス・ケインズ  
よみがえる危機の処方箋  
ヘルマン 鈴木直訳 3600円

「史上もつとも偉大な科学予測の試み」(アーサー・C・クラーク)。

イギリスの生物・物理学者バナルが一九二九年、弱冠二七歳の折に発表した先駆的な人類未来論が甦る。書名の「宇宙・肉体・悪魔」は、これまで人類の妨げとなってきた物理的、生理的、心理的な三つの制約を指している。

これらのくびきを解き放つため、未来人はロケットを開発して宇宙に進出、その過程で自らの肉体を工学的に改造

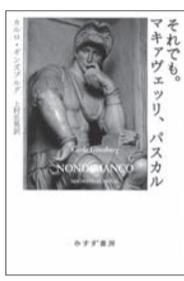


### SFの源流となった科学の予言書

J・D・バナル  
《宇宙・肉体・悪魔 理性的精神の敵について [新版]》  
鎮目恭夫訳 瀬名秀明解説

しつづ機械と融合し、従来の生物を超越した存在へと進化していくだろうと予言する。一世紀近く前の小著ながら、宇宙開発、遺伝子工学、AIによるシンギュラリティ問題など、先端的なテーマがすでに内包されており、その先見性を裏付けている。また、本書が説く宇宙植民島(スペースコロニー)や改造人間(サイボーグ)、群体頭脳などのアイディアは、ステイプルドンやクラークらを通じて、小説から映画に至るのちのSF作品に多大な影響を与えたことでも知られる。

いまなお刺激に満ちたラディカルな古典に「新版への解説」(瀬名秀明)を収録。NHK・Eテレ「100分de名著」でも紹介された話題作。  
【科学思想】  
(四六判・136頁・二七〇〇円)



### 隠れた政治神学の歴史

近代的な「統治の技術」を理論化したマキアヴェッリ。「永遠の空間の無限の沈黙」を畏怖した信仰者パスカル。ふたりは離れた位置にありながら、緊密につながっていた。歴史家ギンズブルグは細部を凝視することで浮かび上がる徴候を手がかりに、政治神学の隠れた歴史へと近づいていく。

「歴史・思想」  
工房、修道院の文書庫―著者は書物の時空をこえ、埋も

### 新装復刊

[11月]

#### 恋愛のディスクール・断章

バルト『若きウェルテルの悩み』、ニーチェ、禅などのテキストを引用しつつ恋愛についての詩的な百科全書を紡ぐ。三好郁朗訳 ¥4500

#### 小津安二郎「東京物語」ほか

田中真澄編 単行本未収録の初期エッセイから、戦地からの手紙、名作の監督使用台本まで。世界の巨匠 OZU の全貌を捉える。¥3400

#### 正直シグナル

非言語コミュニケーションの科学 ペントランド 非言語のシグナルを可視化するテクノロジーと「ネットワーク・インテリジェンス」の可能性。柴田 安西監訳 ¥3400

#### 西洋哲学史

【新装合本】  
ラッセル 独創的な思想家による最高の哲学史。古代から20世紀まで、時代背景とともに明快、流麗な叙述で描く。市井三郎訳 ¥15000

### 野生の存在論にいたる思考の歩み

M・メルロ・ポンティ  
D・セグラル編  
松葉祥一・加國尚志訳  
《自然》  
コレージュ・ド・フランス講義ノート

「自然」は謎めいた対象であり、まったく対象ではないような対象である。つまり「自然」は、われわれの目の前にあるものではまったくなく、それは、われわれの土壌であり、われわれを支えているものなのである。本書は、一九五六年から六〇年にいたる「自然」を主題とした著者の講義を、受講生のノートや著者自身の講義準備草稿をもとに再構成したものである。デカルト、カント、シェリング、ベルクソン、フッサールなど哲学者の諸考察、さらに自然科学、特に二〇世紀の物理学やフォン・ユクス



### 日本スラヴ学研究会 奨励賞受賞

松尾梨沙『シヨパンの詩学』ピアノ曲『バラード』と『詩の誕生』  
選評に「19世紀ヨーロッパの文学研究と音楽学」の成果が結実した学際的な論考。「堅実でありながらも、学術的な野心に満ち」(四六〇〇円)



本紙PDF版ダウンロードのご案内  
みすず書房ウェブサイトをよりよく。http://www.msiz.co.jp/misuzupublishers\_review/

発行終了のお知らせ  
本紙「パブリッシャーズ・レビュー」は、次号(12月)までで発行を終了いたします。前身の「出版ダイジェスト」紙みすず書房特集号(出版学会発行)以来、長らくお読みいただきまことにありがとうございました。

### みすず美術カレンダー2021

テーマは「ナイヴ・アートの世界」  
Nature Art は「素朴派」とも呼ばれ、正式な美術教育を受けたことのない作家によって制作され、素朴さや独創性が際立つ作品群を指し、プリミティブイズムや抽象表現主義の発展とともに現代美術の動向の一つとして認められるようになりました。パウラ・モーダーゾーン・ベッカー、アルフレッド・ウォリスらによる巧まざる線描と色彩の妙味をお楽しみください。



### みすず書房 営業部だより

三月以降、新型コロナウイルスの影響で、多くの書店が臨時休業に追い込まれました。ほとんどの大学も休校となり、学術専門書を刊行する出版社が青さめる状況となりました。幸いなことに、営業を継続した書店の売上げは好調で、また外出を控えた方が通信販売で購入されたり、普段は図書館を利用する方が個別に購入されたり、とても嬉しいです。引き続き、よろしくお願いいたします。

(税込)に送料手数料を加えた合計七〇〇円の切手を同封のうえ、みすず書房営業部(〒113-0033 文京区本郷2-20-7)までお申し込みください。複数のご購入については営業部(電話03-3814-0131)までお問い合わせください。書店店頭でもご注文になれます。(十月中旬発売予定)

### みすず書房・最近の重版より

- きのこのなぐさめ  
ロン・リット・ウーン 枇谷・中村訳 ¥3400
- 生きがいについて 《神谷美恵子コレクション》  
神谷美恵子 柳田邦男解説 ¥1600
- 治したくない―ひがし町診療所の日々  
斎藤道雄 ¥2200
- 道しるべ  
D. ハマーショルド 鶴飼信成訳 ¥2800
- 夜と霧 [新版]  
V. E. フランクフル 池田香代子訳 ¥1500
- 医師は最善を尽くしているか  
A. ガワンデ 原井宏明訳 ¥3200
- ウイルスの意味論―生命の定義を超えた存在  
山内一也 ¥2800
- もうダメかも―死ぬ確率の統計学  
D. シュビゲルハルター他 松井信彦訳 ¥3600
- 刃物たるべく―職人の昭和  
土田昇 ¥4500
- かくれた次元  
E. T. ホール 日高敏隆・佐藤信行訳 ¥2900